

2023
8

しがの生協

No.194

TOPICS
トピックス

48回通常総会を開催 全5議案を可決

コロナ禍が終息を見せる中、4年ぶりの通常運営による開催を行い、全議案承認され、役員改選を併せて滞りなく終了しました。



(上) 左から、議長：コープしが、満嶋代議員、開会挨拶：白石会長、来賓挨拶：滋賀県三日月知事代理県民活動生活課・植村課長、(下) 左から、来賓挨拶：関西地連・村上事務局長、会場発言：コープしが、那須代議員、滋賀県立大学生協・谷川代議員



第48回通常総会内容

- 第1号議案 2022年度活動報告及び決算、
剰余金処分案承認の件(監査報告含む)
- 第2号議案 2023年度活動計画及び予算承認の件
- 第3号議案 監事監査規則の一部改正の件
- 第4号議案 役員報酬決定の件
- 第5号議案 役員改選の件

以上第1号議案から第4号議案まで全て賛成多数で可決承認され、5号議案の役員改選は定数内で全員当選となりました。

【出席状況】 代議員定47名
本人出席23名、書面出席23名、委任出席1名

2023年度(第43期)役員名簿

○印は代表理事、*印は新任。

役職名	氏名	出身生協
会長○	白石 一夫	生活協同組合コープしが・理事長
副会長	柳澤 克哉	滋賀大学彦根生活協同組合・専務理事、 滋賀大学大津地区生活協同組合・理事
専務理事○	森井 徹	滋賀県生協連・専務理事
常務理事	横井 浩二	滋賀県勤労者住宅生活協同組合・常務理事
理事	濱田 弥生	生活協同組合コープしが・副理事長
理事	熊沢 初美	生活協同組合コープしが・常任理事
理事	寺田 真	生活協同組合コープしが・常務理事
理事	白川 尚正	滋賀県勤労者共済生活協同組合・専務理事
理事*	森井 和則	滋賀県立大学生生活協同組合・専務理事
理事	福塚 友見	しが健康医療生活協同組合・専務理事
理事	佐藤 由紀	滋賀医科大学生活協同組合・理事
理事	山下 崇輝	生活クラブ生活協同組合・専務理事
理事*	日永 勇介	グリーンコープしがまる生活協同組合・業務担当理事
監事	海老澤文代	生活協同組合コープしが・監事
監事	金岡 英明	しが健康医療生活協同組合・理事



本総会を以て、堀川亨前常務理事、藤井博史前常務理事、瀬霜廣栄前理事(欠席)が退任しました。

総会終了後には、「学びの場」(7ページ参照)を開催の後、4年ぶりに懇親会を開催しました。

滋賀医科大学生活協同組合

つながり・中期展望・連帯

滋賀医大生協は今年度から21年目の事業年度に突入しました。コロナ感染を広げない留意はしながらも、大学の授業は対面基本となり、学生のクラブ活動も活気が戻ってきました。これらのことも踏まえ、2023年度は「あらたな10年に向けて 組合員とリスタート」を年間の活動テーマとして総代会で確認しました。オンラインの便利さもありますが、キャンパスで生協そのものや店舗を通じて組合員同士が、あるいは組合員と生協がよりコミュニケーションを深める1年にしたいと考えています。

一方で昨年度は大きな単年度赤字を計上する決算結果となっています。次の10年を展望して既存の店舗事業だけではなく、新たなことにも挑戦していく必要があります。次年度予算・計画以外に当面の3か年を見据えた中期計画についても総代会で確認をし、2023年度から取り組みを進めていくことにしました。特に新入生の方に向けての提案は他大学生協の実践に学ぶことも多くあります。コロナ禍を経て学び方も変わり大学生の必需品になっているパソコンなどのデバイス、日々の食費を心配せずに食事をしてもらうためのミールシステムなど、今の時代だからこそより一層自信を持っ



聴診器見本展示会

て新入生にご提案し、生協組合員の仲間にもなっていたきたいと考えています。

環境としては原材料や輸送費、光熱費の値上がりなど、組合員個人の生活はもちろん生協の事業経営にも厳しい状況が続くことが見込まれます。組合員の理解や協力を得ながら、また大学生協間や滋賀県内の生協の仲間の連帯と知恵も支えに、これらの課題を乗り越えていきたいと思ひます。そして様々な変化の中でも医療を通じて人に貢献しようと研究や勉学・実習に励む学生・教職員を応援できる生協として、彼らを身近で知るキャンパス内のお店として、今年度も引き続き頑張っていく所存です。

滋賀大学大津地区生活協同組合

新生協へ。大学生活をサポート

2023年度は、滋賀大学大津地区生協として事業・組織運営を行う最後の年となる予定です。

2024年には、滋賀大学彦根地区生協を存続組合とし、新たに「滋賀大学生協」としてスタートを切る見込みです。

2023年度に掲げた方針は、以下の点を掲げています。

① 新しい業務システムを活用し、パート職員を中心とした店舗運営を一層強化していき、当期剰余の黒字化を最大の目標とします。

2021年度からパート職員のみで店舗の運営を進めています。お店としてのサービスレベルを上げるためにも、引き続き商品学習などに取り組みお店のレベルアップを目指します。

② ミールカードを広く推奨し、きちんとした食生活を送ることができる学生を増やし、安定的な食堂利用者を確保できるよう取り組みます。

2年前から取り組みを始めたミールカードは年々、利用される方が増えてきています。将来、教員を目



指す学生にとって、きちんとした食生活を心がけることは必要です。改めてこの取り組みを強化します。

滋賀大学の天津地区で勉学・研究に勤しむ、組合員の皆さんに最後まで貢献できるよう取り組みを進めて参ります。「滋賀大学生協」となりましても引き続きのご理解ご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

滋賀県立大学生生活協同組合

組合員が作る生協食堂

今年度は新型コロナウイルス感染症の5類感染症に移行したことも相まって4～7月の前期期間は利用者数も増加し滋賀県立大学自体も活気を取り戻してきたように思います。オープンキャンパスも4年ぶりに再開し、各種イベントも制限がない状態で出来るようになりました。授業も対面で行われ続けているのでこまめな消毒作業など、感染対策に十分留意しながら、学生の元気溢れるキャンパスを目指し、生協学生委員会とんがりを中心に新入生・在校生の悩み解消や充実した生活、学生の学びと成長に寄与する活動を進めていきます。

滋賀県立大学生協には「生協学生委員会とんがり」という、生協を舞台に活動する40名ほどの学生組織があり、お店を盛り上げる企画、学生の健康・安全を啓発する活動、入学してくる新入生の不安を解消し温かく迎える活動など、様々な活動を行っています。

学内ショップでは、学生が田植えから品質検討まで関わっている日本酒「湖風」の提供、食堂では地産地消を意識したメニューを提供するなど、大学とともにSDGsを推進する活動を進めています。

次年度の目標としては生協食堂の一つである看護学



学生委員会「とんがり」の活動の様子 (学生生活相談会)



学生が田植えから品質検討まで関わっている日本酒「湖風」

部の食堂を改装し新しい提供メニューで滋賀県立大学の組合員にまた違った生協食堂を楽しんで利用してもらいたいと思っております。その改装に関しても学生・教職員と一緒に考え協同しながら「組合員が作る生協食堂」を作っていく予定です。

コロナ禍で下火になってしまった諸団体の学生活動も盛り上げるために生協として何が出来るのかを考え学生の学びと成長に寄与する活動を続けていきます。

県連理事の立場としても地域の学びを支える活動に注力してまいりたいと思ひます。

滋賀大学彦根地区生活協同組合

今年度は一つの滋賀大生協へ

これまで滋賀大では、コロナ感染拡大防止の観点からオンライン・オンデマンド型の授業の実施やクラブ・サークル活動などにも制限が設けられてきていました。しかしながら、2023年度は、コロナ禍の制限が緩和されることを想定し、以下の方針を掲げました。

<滋賀大彦根生協方針>

●「組合員の声を聞き、組合員と共に考え行動していく生協を目指し、事業活動や組合員活動に取り組んでいきます。

●組合員に生協のことをよく知ってもらい、生協に興味・関心を持ってもらえるよう取り組みます
組合員同士、組合員と生協との繋がりを大事にし、学生団体・学生組織の活動を支え、応援し学生の成長と大学の活気作りを応援します。

●大津生協と合併し、1つの滋賀大生協としてそれぞれのキャンパスの組合員に支持されるよう、自立・安定した生協作りに取り組みます。

この数年、コロナ禍を理由にしてきちんと組合員の声や要望を聞くことができなかつたと反省し、ま



ずは改めて組合員の声・意見に耳を傾けることを大事にしようと考えています。また、学生のアンケートなどを見ると、生協の事を身近に感じていない学生が非常に増えてきており、生協の考えや取り組みを多くの方に知ってもらう必要があると感じています。

コロナ禍により、クラブ・サークル活動など課外活動に参加する学生の比率が以前よりも低下しています。学生が元気で頑張れるように生協として学生の活動をサポートしていきます。

23年度は、大津地区生協と合併し、1つの滋賀大生協として運営していくことを目指す年となります。

コロナ禍を経て、改めて生協として大事にしなければならぬことを確認し、生協作りを進めて参ります。

グリーンコープしがまる生活協同組合

地域に根差すグリーンコープ

1. 組合員が楽しく活動できる場を拡げていきます。
2019年に西日本に広がっているグリーンコープ共同体および事業連合に正式加盟しました。滋賀県の地域の皆様にグリーンコープを知って頂く活動を始めました。こだわりの商品、グリーンコープの活動や理念に共感頂いた、新たな組合員との出会いもあり、着実に広がっていています。正式加盟より4年目に入り、これまで積極的に企画していくことが出来なかった組合員活動について、組合員が、豊かに・楽しく・意義を実感できる活動を、本格化させ推進するように計画しています。

2. 子供たちの未来のために、グリーンコープ共通の運動を進めていきます。

地球温暖化が進行、異常気象、気候変動の問題は地球上のすべての生物にとって深刻な問題であり、近年、一層深刻な状況を引き起こしています。地球温暖化の進行の速度を緩めなければ、次の世代の子供たちに甚大な不利益をもたらすであろうことは、私たちみんなが感じているところです。「緑の地球をみどりのままで」「自然と人との共生」という理念・願いの実現に向けて、グリーンコープ共通の優先順位の高い課題として、様々



総会記念講演「家庭から始める環境への取り組み」

な取り組みを通してカーボンニュートラルに取り組んでいく計画です。

3. 地域にグリーンコープを拡げていきます。

これまで、積極的な広報活動を行っておらず、インターネットやSNSを通じて滋賀県での存在を知った方々が、グリーンコープしがまる生協に参加されています。滋賀県におけるグリーンコープは、まだまだ、知られた存在ではありません。これから様々な広報活動を通じ、より丁寧な説明を意識し「いのちを育む食糧」である商品をキーワードに、今後、計画されていく組合員活動と連携しながら、地域に根差すグリーンコープしがまる生協を拡げてまいります。

生活クラブ生活協同組合

集い、語りあい、触れ合える場

昨年10月に守山市水保町に新センターを建設しました。自前のセンターを持ったことで、組合員が自由に集まり、活動できる場所を獲得することができました。会議室は80人が入れる大きさで、2分割できるようにしています。キッチンも設置しました。生産者交流会や料理教室など、おおぜいの組合員が集まり、様々な企画を開催することができます。託児室もつくりました。組合員と子どもたちが、滋賀の木材を床に張り、漆喰を壁に塗りました。

定期的に「生活クラブマルシェ」を開催しています。組合員外の方も来ていただける、地域に開いたマルシェをしています。

雨水タンクを設置しました。これから太陽光パネルも設置していきます。

毎週火曜、組合員が世話役となって、消費材を取りに来てもらえる「留め置き班」という活動をしています。お昼ご飯も作っています。荷物を取りに来るだけでなく、ごはんを食べながら話ができる、組合員が語りあえる居場所づくりになっています。

キッチンのある会議室を子ども食堂やみんな食堂にできないかということも検討しています。今後も、組合員



みんなで手に入れたセンターを、人々が集い、語りあい、触れ合える場所にしていきます。

その他、働く場づくりとしてワーカース設立を目的とし、設立に向けて伴走支援をしています。

原発をなくし、再生可能エネルギーが主体となり、エネルギーも自給できる社会をつくりあげるために、生活クラブでんきの契約者を増やすこと、リフレッシュツアーの開催、甲状腺検査活動に取り組んでいます。

生活の課題を共有できる範囲で組合員が集まれる場所をと、毎月、学区会を開催しています。福祉施設や子どもたちのための施設を利用している人も消費材が利用できるように員外利用の許可を取りました。

今年度も、おおぜいの人と出会い、生活クラブの仲間を増やしていきます。

生活協同組合コープしが

コンセプトは「みんなごと」

1993年に滋賀県内4つの生協が合併して誕生した「生活協同組合コープしが」は、おかげさまで設立30周年を迎えることができました。30周年を契機に理念「ともにつくる笑顔あふれる未来」の実現に向けて協同の精神を再確認し、新たな活動・行動コンセプト「みんなごと」を制定しました。物事を自分ごと・他人ごとと切り分けず、自分の経験や困りごとは相手にも共通しているものだと考えて、課題はみんなで解決しようという想いをこめています。笑顔あふれる未来を目指して40周年、50周年と重ねていけるように、組合員・生産者・県民みなさんの「わたし」の意見を「みんな」の意見として、さまざまな課題も「みんな」で取り組みます。

今年度の特徴的な取り組みとして、地域農業の活性化や後継者不足による耕作放棄地の拡大防止に少しでもつながるよう、人手が必要な時にボランティアで農作業のお手伝いを目的とするファーマーチャレンジ【援農】隊をはじめます。また、自然共生社会の実現に向けた環境活動として「びわ湖清掃ウォーク」を9月第1土曜日のコープしがびわ湖の日に大津市と彦根市で同時開催します。その他、コープ商品や産直商品、地場



商品などの試食や販売を通じ商品の良さを伝え、商品を真ん中に生産者と組合員、役職員のつながりを生み出す「商品大交流会」も大津市と長浜市で開催します。

この数年間、コロナ禍によりリアルな場で「集う」ことができない時期が続きましたが、今年度からはみんなで集って、知り・学ぶ活動をコロナ禍以前にも増して積極的にすすめていきます。その中でコープしがの魅力を見つけてもらい、より良いくらしの実現のために「みんなごと」を合言葉に、これからの未来に期待できる1年にしていきます。

滋賀県勤労者共済生活協同組合

「新しいたすけあい」の創造

2023年度は中期経営政策「2022-25～変革と創造」の2年目として、さらにお役立ち発想と共創活動にもとづく新しい事業と運動を展開していきます。特に、公式アプリ導入の促進とこくみん共済Lifeサポートを活用した保障設計サポートおよび生活設計サポートの推進を展開し、「新しいたすけあい」を協力団体や組合員と一緒に創造・実践していきます。

事業推進面では「団体生命共済」「マイカー共済」を最重点共済と位置づけ、各団体との連携をさらに強化しながら組合員目線に立った推進活動をおこなうとともに、県内2カ所の共済ショップにおいても組合員に対する相談や提案活動を展開していきます。

また、滋賀推進本部（滋賀県勤労者共済生活協同組合）は、社会貢献活動としてSDGs達成のため頻発する自然災害から守る防災・減災の取り組み、環境保全の取り組み、子どもの健全育成の取り組みや交通安全の取り組みなどをさらに実行してまいります。

引き続き代表委員（理事）および役職員が先頭に立って運動を推進し、将来にわたる組合員へのお役立ちと豊かで安心できる社会づくりの取り組みを進めること



とともに、コンプライアンスやガバナンスをさらに強化して業務品質のさらなる向上を目指します。

滋賀県勤労者住宅生活協同組合

住宅事業を基盤に自主福祉運動

滋賀県住宅生協は、「助け合い・支え合う」共助拡大の取り組みを地域の中に広げようと事業運営を行っています。誰もが経済的困窮や社会的孤立に陥ることなく、豊かに安心して暮らすことが出来る地域社会を目指して自主福祉運動を進める組織の中で、住宅関連の役割を担いながら様々な取り組みを進めています。

住宅産業では脱炭素対策が本格化しつつあり、高断熱化とZEHの普及が進んでいます。カーボンニュートラルによる持続可能な社会づくりと、室温管理での快適な住空間づくりによる健康増進、更には近年の気候変動の影響による水害、土砂災害の頻発化を背景に人々の安全・安心な暮らしを支える為の災害に強い街づくり、回復力のある持続可能な住環境づくりなど、幾多の要素が求められています。こういった社会背景の中で、新築、リフォーム・リノベーション、様々なシーンでの住空間づくりのご提案を行い、住みやすさ、暮らしやすさに向けたお手伝いをさせていただいています。

こういった住宅事業を基盤に、2023年度自主福祉運動の一翼を担う取り組み方針も決定いたしました。

保護者のない児童や保護者に監護させることが適当でない児童の安定した生活環境を整えるための児童養



学生団体Clownへの寄付

護施設に対します支援や、昨今、拡大・増加しています困窮世帯への食料提供などについても積極的に取り組んでいきます。

また、地域の活性化を目的に、この滋賀で学び、活動する地域学生団体との連携により、子どもの居場所づくり、地域交流拠点づくりの取り組みも支援していきたいと考えています。更には、滋賀に拠点を置く地元企業と学生達との交流の場を作り、それを通じた「就活・橋渡し事業」も開催していきたいと考えています。

滋賀県職員生活協同組合

経営改善で黒字。地場振興も

当組合は、昭和55年に職域生協として設立され、県庁や合同庁舎などで売店や食堂を運営しています。また、団体保険の取扱いや販売サービス事業などを行い、県職員をはじめとする約5,300人の組合員の福利厚生の一翼を担っています。

長年、現役組合員の減少や生活スタイルの変化、購入先・購入方法の多様化などにより供給高の減少が続くとともに、人件費をはじめとする固定費の高止まり、さらに新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、厳しい運営を続けてきました。このような中で、近年、事業の整理と人件費の削減を柱に経営の改善に取り組んできた結果、令和4年度の決算は実質的な黒字となりました。

この間、食堂の閉鎖や旅行事業からの撤退など、組合員の皆さんに大変ご不便をおかけしてきました。このため、令和5年度は①組合員から信頼され、親しまれる生協 ②組合員の声に耳を傾け、ニーズに応えた事業の展開 ③県の施策・事業との連携・協力の3つを基本方針に掲げ、組合員の職場生活の一層のバックアップに努めます。

従来からの事業を更に充実させることに加え、売店



では、県内の農業生産者、県農業技術振興センター（農業大学校など）、県立高校などが生産する農産物を積極的に販売します。また、物資あつ旋では、地酒をはじめとする県の特産品を数多く取り扱い、地場産業振興の一助となるように努めます。さらに、食堂では食材に地元で栽培された環境こだわり農産物を使用します。令和5年度も物価の高騰など厳しい経済情勢の下での運営になりますが、引き続き組合員の福利厚生をしっかりと支えてまいります。

しが健康医療生活協同組合

地域の「困った」に寄り添う

新型コロナウイルス感染症と対峙してから3年が経ちました。想像を超える感染者数となり、多くの医療機関・介護施設でクラスターが発生しました。また、人と会う機会、外に出る機会も減り、つながりが薄くなりフレイルが進行しています。そのような中でも、新たな班づくりや組合員増やしにとりくんできました。「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる」は医療生協の役割（理念）です。医療・介護・健康づくりの事業と運動をすすめ、医療生協を地域に広げる活動を取り組む中で、地域の健康づくりや地域から求められる医療生協、事業所の在り方を見つめる1年としていきます。また、「つながる」ことを重視し、さまざまな団体、地域、組合員、行政と連携をすすめて、顔の見える身近な範囲で「ゆるやかなつながり」を広げ、誰一人取り残されない「居心地よくらせるまちづくり」をすすめていきます。

2023年度は、コロナ禍で制限されていた活動を、感染対策を継続しながら広げていく予定です。栗東市にあるこびらい生協診療所を中心に健康まつりを開催し多くの子どもたち家族連れが参加しました。

2022年度から引き続き社協さんの協力も得て「女性



のつながりサポート事業」やフードドライブに取り組みます。街角や店舗をお借りし健康チェックも大いに進めていきます。

貧困や格差が広がる中で、子ども食堂やにじの家サロン、かんがる〜広場、みんなきてやカフェ、金曜井戸端などの活動を継続し、つながりづくりに取り組み、地域の「困った」に寄り添う取り組みをすすめていきます。

まずは、私たちのいる地域にはどのような社会資源があるのか、地域に住んでいる方々は何を望んでいるのか、私たちができること、一緒にできることは何かを、一緒に考え、地域に出ていく取り組みを実践していきたいと思っています。

滋賀県連の報告

総会終了後の学びの場

テーマ 島々を二度と戦場にしないために、誰もが安心して暮らせる社会へ
～沖縄戦から学び、現在を知り、未来を描く～

講師：瀬戸 隆博氏
(恩納村史編さん係・ピースアクション in オキナワ 沖縄戦跡基地めぐり平和ガイド)



78年目の沖縄県「慰霊の日」の翌日、6月24日、コラボしが21で、瀬戸隆博氏から、国内唯一の住民を巻き込んだ地上戦「沖縄戦」、新たな困難が始まった「戦後」、そして再び軍事基地化する沖縄の現状を学びました。

1945年3月末に始まった沖縄戦。米軍約55万人、日本軍11万人(地元の防衛隊、学徒隊含む)。圧倒的戦力差での、本土防衛・国体(天皇制)護持の「捨て石」「時間稼ぎ」の戦争でした。

少年少女を含む住民が戦場に動員され、日本兵による住民殺害事件も多発。約20万人の戦死者のうち県民の犠牲者は12万人以上。軍人の犠牲を上回りました。

終戦後、米軍は「銃剣とブルドーザー」で住民の土地を接収。米軍による事件・事故も多発。1995年の海兵隊員による少女レイプ事件に対し「日米地位協定の見直し」

「基地の整理縮小」を求める県民投票で、9割以上の賛成票が投じられました。しかし、今に至るも「基地整理」は「県内移設」、「日米地位協定」は手つかずのまま。日本の国土の0.6%、人口1%の沖縄に、7割の軍事基地があります。さらに今、「中国が攻めてくる」と喧伝し、さらなるミサイル基地をつくらうとしています

瀬戸氏は最後に、「沖縄戦で息子を亡くし、戦後は土地を接収され、生涯を非暴力抵抗・説得・教育活動に捧げ、生協活動にも尽力された」伊江島の阿波根昌鴻(あはごんしょうこう)さんの「平和の最大の敵は無関心である。戦争の最大の友も無関心である。」という言葉を紹介されました。

詳細はこちらの二次元コードにて→



滋賀県生協連からの お知らせ

「日本政府に核兵器禁止条約の署名・ 批准を求める署名」の活動に取り組ん でいます。

2021年からこの活動に取り組み、今年で3年目を迎えます。この間の平和をめぐる情勢は大きな変化をしており、ロシア軍によるウクライナ侵攻による核兵器の使用への不安の高まり、北朝鮮や東アジア情勢の緊迫化に伴う、日本の安全保障政策の見直しなど、社会やくらしをめぐる情勢は厳しさを増しています。このような状況の中、核兵器のない平和な世界の実現に向けて「核兵器禁止条約」を知り・学び、私たちがのことができることの一步として、署名活動への協力をお願い致します。

**核兵器禁止条約の
署名・批准を求めます**

核兵器禁止条約が
発効されました！

2017年に国連総会で条約が決議され、発効まで4年の歳月を経ましたが、2021年1月、史上初めて核兵器の持たせを禁止する画期的な国際的取り決めとなりました。しかし、唯一の被爆国である日本はこの条約に批准していません。

くわしい内容はこちらの動画で → 

核兵器廃絶を目指して
署名にご協力をお願いします。



Web 署名はこちらの
 二次元コードから

滋賀県生活協同組合連合会

1 取り組み期間

2023年7月11日～10月31日

2 核兵器禁止条約を知るための 学習用YouTube動画の視聴推進

核兵器禁止条約に関する学習用 YouTube 動画（10分30秒）を限定公開して視聴できるようにしています。



こちらの
二次元コード
にて
↓



3 私のできるごととして 署名へのご協力をお願い

「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」をホームページ上で電子署名ができるように配置しています。

こちらの二次元コードにて →



4 署名の扱いについて

各会員生協に提出された署名及び電子署名は、滋賀県生協連で集約し、日本原水爆被害者団体協議会へ送付します。

5 取り組み結果のお知らせ

署名の取り組み結果については、ホームページや広報誌にて行っています。

理事会 報告

7月20日理事会での 主な決定事項

- ①第43期専門委員の任命
- ②2023年度大規模災害対策委員会の設置
- ③第49回臨時総会の開催と第43期役員補充選挙の実施について
- ④2023年度 県への政策・制度要望書の提出について
- ⑤会員生協トップ交流・懇談会の開催について

今後の主な予定

2023 August	8月23日	近畿地区生協・行政合同会議
	8月25日	第3回臨時理事会
2023 September	9月4日	くらしと協同の研究所創立30周年式典・祝賀会
	9月13日	滋賀県行政指導検査
	9月14日	第49回臨時総会／第3回常務理事会／第4回理事会／大規模災害対策委員会
	9月20日	県連活動交流会
	9月28日	第2回関西地連運営委員会／第2回県連活動推進会議

発行 滋賀県生活協同組合連合会

〒520-2351 滋賀県野洲市富波甲972番地 生活協同組合コープしが内
TEL:077-518-0072 FAX:077-518-0078 URL: <http://shiga-seikyoren.org/>
Mail: siga-seikyoren@sings.jp

